

保育者の資質向上のための研修プログラムの開発

— 学生と保育者のための運動遊びハンドブックを活用した「島根県雲南市
幼稚園、保育所（園）、認定こども園職員研修会」を通して —

Development of a Training Program for Improving the Capabilities of
People Involved with Early Childhood Education : By way of a Training
Conference for Early Childhood Educators in Shimane that Used a Play
Activities Handbook

梶 谷 朱 美 ・ 藤 原 洋 子

（保育学科）

（松江キャンパス非常勤講師・元雲南市子ども政策課）

キーワード：運動遊びハンドブック、保育者の役割、グループワーク、
保育者の資質向上

1. はじめに

今世紀に入る頃から、保育所に求められる機能や役割が急速に多様化し、保育をめぐる課題も複雑化している。そのため、一人一人の職員に、日々の業務に加え、主体的にその資質・専門性を向上させていく努力が求められるとともに、保育所が組織として保育の質の向上に協同的に取り組むことが課題となっている（汐見・無藤，2018）。

こうした状況の中で、前回（2007年）改訂（定）の保育所保育指針で初めて「第7章 職員の資質向上」という独立した章が設けられ、保育所の役割や機能が多様化し拡大していく中で、第7章に「1 職員の資質向上に関する基本的事項」「2 施設長の責務」「3 職員の研修等」の3節が示されたのである。

そして、2017年3月に改訂（定）された現行の「保育所保育指針」でも「第5章 職員の資質向上」という独立した章が設けられ、保育所は、質の高い保育を展開するため、また、一人一人の職員についての資質向上及び職員全体の専門性の向上を図ることが示された。現行の保育所保育指針では、前述の3節「1 職員の資質向上に関する基本的事項」「2 施設長の責務」「3 職員の研修等」に加え、「4 研修の実施体制等」の節が加えられた。一人一人の職員が、自らの職位や職務内容に応じて、組織のなかでどのような役割や専門性が求められているのかを自覚して研修を行うことやキャリアパス（理想とする人材像）を明確にし、それを見据えた体系的な研修計画を作成することが必要とされている。3節の職員の研修等の「(1)職場における研修」には、「保育の課題等への共通理解や協働性を高め、保育所全体としての保育の質の向上を図っていくた

めには、日常的に職員同士が主体的に学び合う姿勢と環境が重要であり、職場内での研修の充実が図られなければならない」と述べられ、職場内の研修等を通じて、職場全体が向上していくことの大切さが強調されている(汐見・無藤, 2018)。

このような状況を背景に、2017 年 4 月には、保育現場におけるリーダー的職員等に対する研修内容や研修の実地方法について、「保育士等キャリアアップ研修ガイドライン」が定められた(平成 29 年雇児保発 0401 第 1 号)。このガイドラインに基づいて、各保育所では地方自治体や保育関係団体の主催する外部の研修を活用することが進んでいる。

島根県雲南市では、全ての幼稚園、保育所(園)、認定こども園において、子どもの主体性を重視し、子どもと保育者がともに創り出す遊びを中心とした保育(環境を通しての保育)を実践し、0 歳児から 6 歳児までの質の高い保育、教育が展開されている。そして、そのための研修の機会が年間を通して計画され、雲南市子ども政策局子ども政策課の教育保育指導員が各園(所)の研修会に参画する等、職員の資質向上を図る取組が組織的、計画的、継続的に行われている。

そこで、本稿では、雲南市子ども政策局子ども政策課主催の「令和元年度幼稚園、保育所(園)、認定こども園職員研修会」の概要と『学生と保育者のための運動遊びハンドブック』を活用した研修会について報告するとともに保育者の資質向上のための研修プログラムを提案することを目的とする。

2. 雲南市の幼児教育に係る基本的な考え方と展開

雲南市の幼児教育の特徴的な取組は、以下に述べる 2 つのプログラムをいかした保育、教育を実践している点にある。このプログラムは、全ての幼稚園、保育所(園)、認定こども園をむすび、就学へとつながる基本的な考え方を示すものである。

1 点目は、平成 22 年度に策定された「雲南市キャリア教育推進プログラム『夢』発見プログラム幼児期版」である。雲南市独自の「幼児期に育てたい 9 つの力(1:集団の一員としての意識をもち、生活を営む力 2:命に感謝し、楽しく食べる力 3:いろいろな運動を楽しむ力 4:人・自然・もの・ことにかかわろうとする力 5:自分のよさに気づき、自分に自信をもつ 6:人とコミュニケーションをとる力 7:自分を豊かに表現する力 8:自分の行動をコントロールする力 9:友だちとともに活動する力)」を明らかにし、雲南市の幼稚園、保育所(園)、認定こども園から小学校・中学校・高等学校へ一貫性のあるキャリア発達を目指している。そして、このプログラムの共通理念を各幼稚園、保育所(園)、認定こども園において、幼稚園『教育課程』、保育所(園)

『全体的な計画』、認定子ども園『教育・保育課程』を作成する際に生かし、日々の保育、教育に取り組んでいる。

2点目は、平成25年度から平成27年度にかけて策定された「雲南市幼児期運動プログラム〈理論編〉・〈実践編〉」である。これは、平成24年度に文部科学省から示された『幼児期運動指針』を受け、前述の「『夢』発見プログラム幼児期版」にある「幼児期に育てたい9つの力」のうち「3：いろいろな運動を楽しむ力」を保育実践へと展開するものである。様々な運動遊び（発達段階に応じた運動発達を促し、多様な動きの経験を獲得できる遊び）を経験することの重要性を示し、子どもたちの運動遊びを通した総合的な経験から心身の発達を促すことを明確にした。行政と現場の保育者が協働で作成し、子どもたちの「やってみたい」「遊びたい」という主体的で自発的な思いを引き出す保育を目指すものである。

このような幼児教育の2つのプログラムを日々の保育実践に具体化し、雲南市内の18幼稚園、保育所（園）、認定こども園では、平成30年3月に運動的な活動や運動遊びの内容を紹介した『平成29年度雲南市幼児期運動プログラム実践事例集』を完成させた。

3. 学生と保育者のための運動遊びハンドブックの発刊

前述の『雲南市幼児期運動プログラム実践事例集』には、0歳児から5歳児までの保育実践76事例が収録され、運動遊びに没頭している子ども達の姿やそれを支える保育者の関わりが丁寧に記録されている。

また、雲南市の豊かな自然環境や社会的資源等を活用した事例には、子ども達が運動遊びを通して獲得する多様な経験と心身の発達の要素が絡み合い、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の兆しや具現化された姿が見られる。稿者は、保育者やこれから保育者を目指そうとする学生が乳幼時期における心身の発達の理解を進め、保育者の役割を学び、保育実践力を高める貴重な指導参考資料になることを実感することができた。

そこで、平成31年3月に、この雲南市の保育実践を例示とし、運動遊びにおける保育者の役割について理解を深めるために『学生と保育者のための運動遊びハンドブック～感じて、気づいて、考えて、子どもと共に創る運動遊び～』を発刊した。本書を作成するに当たり、雲南市の幼児教育の特徴や『雲南市幼



図1：運動遊びハンドブック

『児期運動プログラム実践事例集』作成までの経緯を整理し掲載した。また、実践事例 76 全てについて分析、考察し、乳幼時期の自発的かつ主体的な活動と心身の総合的な発達の視点から運動遊びを捉え、それぞれの時期にふさわしい保育者の環境の構成と援助を行っている事例を実践事例編と応用編として掲載した。それぞれの実践事例のキーワードや特徴を掲載するとともに、授業や研修で活用できるように演習課題を設定し、事例の本質や魅力を“エッセンス”としてまとめ、コラム欄を設定し考察を加えた。

雲南市では、この『学生と保育者のための運動遊びハンドブック』を活用した研修会を子ども政策課主催の「幼稚園、保育所（園）、認定こども園職員研修会」の中に位置付け、令和元年度から計画的に研修会を始めることになった。なお、これ以降は、運動遊びハンドブックと省略して記述する。

4. 雲南市の研修会の内容

令和元年度の雲南市子ども政策課主催「幼稚園、保育所（園）、認定こども園職員研修会」の研修内容（表 1）は以下のとおりである。研修会の内容は、雲南市の幼児教育や保育の基本となる「雲南市キャリア教育推進プログラム『夢』発見プログラム幼児期版」と「雲南市幼児期運動プログラム〈理論編〉・〈実践編〉」の理解、特別支援教育と子ども理解、さらに運動遊びハンドブックを活用したグループワークによる事例研修(表 1 網掛け部分)である。

表 1：令和元年度雲南市幼稚園、保育所（園）、認定こども園職員研修内容

期日	対象	内容	講師	会場	時間
第 1 回 5/29 (水)	全職員	特別支援教育相談と 子ども理解	島根県東部発達 障がい者支援セ ンターウイッシ ュセンター長	市役所 202-203 会議室	15:00 ～ 17:00
第 2 回 6/26 (水)	全職員	雲南市幼児期運動プ ログラム実践(1) 運動遊びの実践	運動遊び巡回指 導講師	斐伊交 流セン ター	15:00 ～ 17:00
第 3 回 7/31 (水)	全職員	雲南市幼児期運動プ ログラム実践(2) 運動遊びの実践	運動遊び巡回指 導講師	市役所 202-203 会議室	15:00 ～ 17:00

第 4 回 8/28 (水)	全職員	運動遊びハンドブックを活用した事例研修(1)～語り合おう・学び合おう・取り入れよう～	のぞみ保育設計研究所長・身体教育医学研究所うんなん運動指導士・雲南市子ども政策課教育保育指導員・島根県立大学短期大学部保育学科教授	市役所 202-203 会議室	15:00 ～ 17:00
第 5 回 9/20 (金)	全職員	運動遊びハンドブックを活用した事例研修(2)～語り合おう・学び合おう・取り入れよう～	のぞみ保育設計研究所長・身体教育医学研究所うんなん運動指導士・雲南市子ども政策課教育保育指導員	市役所 202-203 会議室	15:00 ～ 17:00
第 6 回 10/23 (水)	全職員	保育の課題について考える(1)	雲南市子ども政策課教育保育指導員	市役所 202-203 会議室	15:00 ～ 17:00
第 7 回 11/27 (水)	全職員	保育の課題について考える(2)	雲南市子ども政策課教育保育指導員	市役所 202-203 会議室	15:00 ～ 17:00

5. 運動遊びハンドブックを活用した研修会の実際

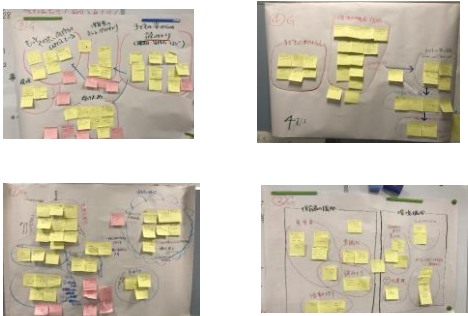
1) 運動遊びハンドブックを活用した研修会の目的と内容

本研修会の目的は、運動遊びハンドブックに掲載された雲南市の好事例をもとに、子どもの主体的で自発的な運動遊びの意義を理解し、運動遊びに必要な環境を整えたり、援助を行ったりするための保育者の役割を考えることにある。

保育者が実践力を高め、質の高い幼児教育を展開するために、保育場面における子どもの姿の記録を読み込み、それぞれの演習課題を通して、具体的な保育者の役割について受講者がグループで話し合う。さまざまな観点から自分の見方、感じ方、考え方を出し合い、自分とは違う見方、捉え方、考え方に触れることにより、より広い視野から保育を考え、「良さ」を取り入れ、自分の保育に生かしていくことで保育者の資質や能力を高めることを目指している。

本研修会の内容や手順（表 2）は、以下のとおりである。ここでは、令和元年 8 月 28 日に行われた研修会でのグループワークの内容や手順を挙げる。

表 2：グループワークの手順

<p>①</p> <p>「学生と保護者のための運動遊びハンドブック」を活用した事例研修会</p> <p>グループワーク ～保育者の役割について～</p> <p>15:00～17:00</p>	<p>②</p> <p>グループワークの目標</p> <p>保育場面における子どもの姿の記録を読み込むこと通して、</p> <p>1. 保育者の役割を多面的に抽出する 2. 保育者の役割を検討することで、自分の保育に生かしていく意欲や態度を育てる</p>																
<p>③ タイムスケジュール</p> <p>【前半】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークの解説 5分 ・2人組でアイスブレイクと自己紹介 5分 ・保育者の役割について 25分 <ul style="list-style-type: none"> ○第1事例で良さを抽出、ペアで討議・発表 <p>【後半】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内（5～6名）での挨拶と自己紹介、役割確認 5分 ・保育者の役割について 15分 <ul style="list-style-type: none"> ○第2事例で良さを抽出 ・保育者の役割の整理と検討、考察 40分 ・グループ発表と質疑応答 10分 ・全体まとめ、講評 10分 <p>※アンケート調査に応じてもらう 5分</p>	<p>④ 物品の確認</p> <table border="0"> <tr> <td>①模造紙</td><td>グループ数</td></tr> <tr> <td>②模造紙用のマジックセット</td><td>グループ数</td></tr> <tr> <td>③付箋2色</td><td>人数×10枚×2色</td></tr> <tr> <td>④付箋記入用水性ペン</td><td>人数分</td></tr> <tr> <td>⑤ホワイトボード</td><td>全体発表 進行板書用</td></tr> <tr> <td>⑥振り返りアンケート用紙</td><td>人数分</td></tr> <tr> <td>⑦ テキスト</td><td>「学生と保護者のための運動遊びハンドブック」 人数分</td></tr> <tr> <td>⑧事例1と事例2のシート</td><td>人数分</td></tr> </table>	①模造紙	グループ数	②模造紙用のマジックセット	グループ数	③付箋2色	人数×10枚×2色	④付箋記入用水性ペン	人数分	⑤ホワイトボード	全体発表 進行板書用	⑥振り返りアンケート用紙	人数分	⑦ テキスト	「学生と保護者のための運動遊びハンドブック」 人数分	⑧事例1と事例2のシート	人数分
①模造紙	グループ数																
②模造紙用のマジックセット	グループ数																
③付箋2色	人数×10枚×2色																
④付箋記入用水性ペン	人数分																
⑤ホワイトボード	全体発表 進行板書用																
⑥振り返りアンケート用紙	人数分																
⑦ テキスト	「学生と保護者のための運動遊びハンドブック」 人数分																
⑧事例1と事例2のシート	人数分																
<p>⑤ 進行上の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な経験や視点をもつ仲間の意見を大切にしよう ・多様な背景をもつ仲間に分かりやすく言葉を選ぼう ・他の人の経験や専門性、意見を尊重しよう（否定しない） ・発言の機会を公平に確保しよう 	<p>⑥ グループ内の役割確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 司会 （進捗管理、発言機会の確保、全体発表） ・ 書記 （ポイントのまとめ、見出し図示） 																
<p>⑦ 講師の役割</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グループワークの解説 2. 時間管理の適切さ 3. 発言機会の公平さ 4. 論点の整理 <p>以上の4点について、グループワークの様子をみながら適宜助言を行う</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. まとめと講評 	<p>⑧模造紙の使い方（例）</p> 																

⑨【事例１】「楽しいところに行きたい 散歩」（１歳８か月から２歳７か月）

<キーワード> ・継続的な散歩の活動・遊びへの意欲と生活習慣の自立の関連性

<事例の特徴>

- ・５月から１０月にかけて、子ども達が心を動かされる身近な場所に行くことによって、自由に見たり、触れたり、感じたりしながら、体をたくさん動かして遊ぶことができています。
- ・子ども達が表わす姿や見つけたものにしっかりと添いながら多様な経験をさせるための援助がなされています。
- ・外に早く出かけたいという意欲が生活習慣の自立をもたらしています。

<事例は省略>

<見つけよう 考えようは省略>

<エッセンスは省略>

⑩【事例２】「今年のすみれさんが楽しめる運動会」を創る（４歳児学級）

<キーワード> ・発達の課題と保育の課題 ・子どもと共に創る環境の構成

<事例の特徴>

- ・自分からやりたいことを見つれたり、自分で決めたりすることが苦手であり、室内での遊びを好む。そのようなクラスの子ども達の実態と課題を抱え、保育者は遊びや生活の中で“自分でみつける”体験を重ねていけるよう関わっていました。
- ・２学期に入り、運動会に向かって行くにあたって、保育者は、“自分でみつける”“まずはやってみる”姿を促すために、自分のやりたいことをして、「自分でやったぞ」と思える運動会を子ども達と共に創っていくことを考えました。
- ・子ども達の心の変容と、子どもと共に創っていった運動会までの過程が記録されています。

<事例は省略>

<みつけよう・考えよう>

- ・「保育のねらいと内容」「子どもの姿と保育者の読み取り・環境の構成と援助」の項目に記述されている内容から、この時期の子ども達の課題と環境の構成、保育者の子どもへの援助について、大切なポイントは何かを確認しましょう。
- ・記録を読んで、それぞれの子どもの姿から、子ども達の心の変容と創っていった活動に目を向けてみましょう。
- ・子ども達の姿の記録から、子どもにとっての「運動会」の意味と、このような保育の考え方について話し合ってみましょう。

<エッセンスは省略>

運動遊びハンドブック（2019：pp. 50-52. pp. 86-89.）より抜粋

⑪ 保育者の役割とは：抽出の視点

子どもたちの自発的な興味や運動遊びへの欲求、意欲、能力を発揮させるための

① 子どもの姿の読み取り・かかわり・援助・言葉かけ

② 環境の構成と工夫

・ 自然環境や人的物的環境、文化的社会的資源の活用

・ 子ども同士の思いや考えがつながり、関わり合うことができる環境の構成

③ その他

⑫ 個人作業（10分～15分）

1. 事例を読み、保育者の役割を多面的な視点で捉え、付箋に書き出す

2. 付箋に1枚に視点は1個

⑬ グループ作業①（30分）

1. それぞれが内容を語りながら付箋を提示し、付箋に書かれた内容をグループで共有する

2. 内容が似ている付箋を集め、その集まりに見出しをつけたり四角で囲んだり矢印をつけたりして模造紙に配置する

3. 図としてまとめる作業を通して、視点を整理、考察する

⑭ グループ作業②（10分）

1. 視点を整理、考察する作業をとおして、今後の保育に生かせる視点を各自で考え、別色の付箋に記入する

2. それぞれが、今後に生かす内容を共有する

⑮ グループ発表と質疑応答（10分）

1. グループで討議した内容を各グループの司会者が全体発表する

2. 質問や感想、気づきなど質疑応答ができるようにする

⑯ 講師によるまとめと講評（10分）

1. 雲南市の保育事例をもとに他の幼稚園、保育所（園）、認定こども園の保育者や教諭とのグループワークを通して感じたことは何か

2. 研修後に自園（所）にかえて役立てられそうなことは何か

3. 受講者同士での振り返りや発表を促す ※アンケート調査も含む

⑰ 本研修会の活用

1. 自園（所）でも、ハンドブックに掲載されている雲南市の好事例を活用したり、保育の実際の場面を観察したりして、保育者の役割について研修を進めてほしい

2. 自園（所）でも、互いの経験や立場等を知り、互いに認め、学び、支え合う関係を築き、研修を深めてほしい

2) 運動遊びハンドブックを活用した研修会の工夫

運動遊びハンドブックを活用した研修会を行うに当たり、初年度ということもあり(1)研修会運営の工夫(講師の役割)(2)運動遊びハンドブックの事例との出会い(3)受講者主体の仕組みづくりの3点を工夫した。具体的な内容は以下の通りである。

(1)研修会運営の工夫(講師の役割)

講師(稿者)は、本研修の目的、内容、手順等を簡潔に説明しホワイトボードなどで視覚化するとともに初回であることを考慮し、グループワークに入る前に心のほぐしも兼ねて簡単なアイスブレイクを行った。

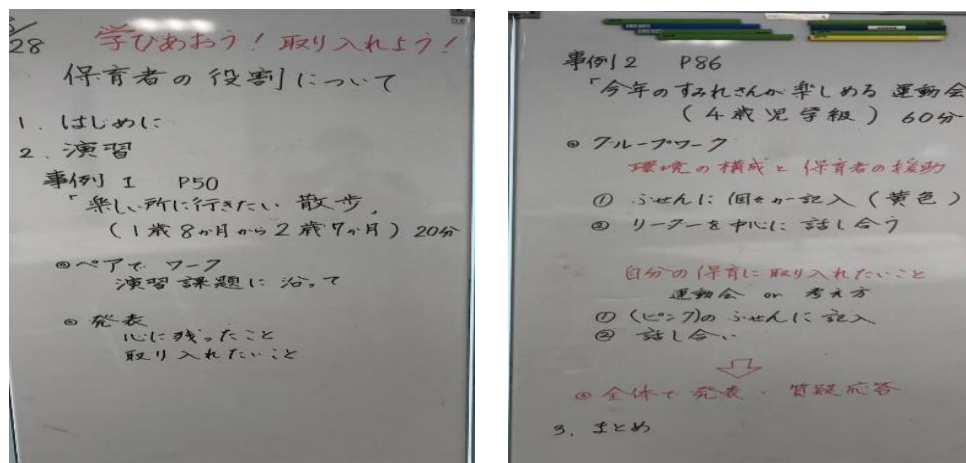


図2: 研修の概要説明の板書

また、講師は、最後に本研修会のまとめと講評(表2参照)を行うことで、保育者が自分の保育を具体的に見つめ直し、他の保育所の「良さ」や「保育の方法」を取り入れ、保育の自己開発を行う意欲や態度を培うように意識した。

表2: 講師のまとめと講評

本日の研修会の大きな目的は、保育者同士がお互いに意見を述べ合って学びあうことだった。雲南省の研修会では、自分たちの実践事例(運動遊びハンドブック)を通して保育の質を高めていくといった他の市町では出来ないことができる。そうした実践事例が雲南省にある事、実践ができる先生方自身が宝物である。

事例2「今年のおれさんが楽しめる運動会」を創る(4歳児学級)では、特に次の4点についてすごさを述べたい。

①担任が子ども一人一人の見とり、子どもの姿の捉え、実態の把握を通して、めざす子どもの姿をもちながら「今年のおれ組」の保育に取り組んでおられること。(保育者の課題意識の高さ)

- ②担任が一人一人の実態から、保育者主導で遊びを与えたり、早急に発展させたりするのではなく子どもの興味関心がある「やりたい遊び」を見守り、子どもとともにじわじわと無理なく遊びを広げられていること。(環境構成の巧みさ)
- ③子どもの変容で感動したのは、「みてみて」から「自分でしたよ」という言葉の変化を担当が捉えられたこと。(子どものつぶやきから心身の発達の節目を捉えられたこと)
- ④担任が子どもの変容を保護者や同僚の先生方に伝え、理解を得られているからこそ、この運動会の実践が可能だったこと。(保護者や職員同士の理解)

この運動会の保育を経て、さらに子どもたちがどのように経験を広げていったのか、担任に聞きたくなるような優れた実践である。今日の研修会での気づきや活用したいと思ったこと今後の保育や、運動会のあり方に取り入れていってほしい。

(2)運動遊びハンドブックの事例との出会い

保育者一人一人が保育事例を読み込み、意識的に子どもの姿や保育者の環境の構成、かかわり、援助について分析できるように3歳未満児と3歳以上の事例を一事例ずつ受講者に提示し演習課題を与えた。受講者は保育の良さを多面的に抽出できるように、また、捉えた良さを端的な言葉で表すことができるようにメモ用紙(付箋)にできるだけ多く書き出すように促した。



図3：グループワークの様子
付箋に抽出(個人作業)

(3)受講者主体の仕組みづくり

前半の3歳未満児の事例については2人組で、後半の3歳以上の事例については、5名から6名のさまざまな経験と視点をもつ保育者同士のグループワークを実施した。異なる幼稚園や保育所、認定こども園の保育者が交流し、経験年数や担当年齢クラスを越えて討議ができるようにグループ編制を行いあらかじめ司会(発表)と書記の役割を決めグループワークを開始した。討議を通して、自分なりの読みとり方や考察を付箋に示しながら話し合い、互いの感じ方や考察を認め合うプロセスの中で、より広く、深く、考える力やコミュニケーションスキルが養われることを目指した。そして、グループワークの最後に各グループの司会者はグループで討議した内容を受講者全員に対して発表し質疑応答を行った。



図 4：グループワークの様子
(グループ作業)



図 5：全体発表と質疑応答

3) 運動遊びハンドブックを活用した研修会の受講者の感想

ここでは、運動遊びハンドブックを活用した初めての研修会での受講者の感想と保育者自身が今後の保育にいかすこととして記述した内容を示す。

①本日の研修の感想

- ・グループワークを通して他園の先生の意見や思いを聞き、子どもの育ちについて話し合ったり共感できたりして良かったです。事例がとても詳しく書いてあったので子どもの姿の変化や関わり方を読みとりながら話し合うことができとても学びが深まりよい研修になりました。
- ・『語る』ことは、とても意味のあることだと思います。事例から読み取り、自分の思いや考えをアウトプットする。自分の保育を語る。今後もハンドブックを利用した研修を年間を通して行うことは意味のあることだと思います。
- ・いろいろな先生方と考えを出し合う中で、環境の構成や援助についての捉えや大切にしていきたいポイントも明確になっていったように思います。こういった研修は自園にもち帰りやっていきたいと思います。
- ・子どもの意欲を引き出す環境が大切であるという、ある先生の感想の中の言葉が自分の中で響き、年齢に関係なく子どもたちが自分たちでやって「楽しい、おもしろい、次もやってみたい」と思えるような遊びの環境設定や子どもたちの思いの受けとめをしていきたいなと思いました。
- ・グループワークをすることで自分の考えや意見をいう場(環境)があり、また、自分の考えに共感してもらったり、共有したりすることではっきりとした気持ちをもつことができました。子どもと同じように共感してもらえると嬉しい。「誰かの考え」ではなく、「自分の考え」をもっと大切にしていきたいと思いました。
- ・子どもの姿から読み取ることの大切さをあらためて感じました。保育者

の思い込みであってはいけないこと。また、保育者の思いの押し付けであってはいけないと思います。未満児でも以上児でもありのままの姿を受けとめることが大切だということは変わらないと思いました。

- ・今回の研修の2つの事例がとても今後の保育に参考になるものでした。また、その事例によるグループでの話し合いでは、他の先生方の意見や感想を聞く中で自分も付け加えて更に話が発展していくことにグループワークのよさを感じました。
- ・はじめに、隣同士で簡単なゲームを通して関わることで、緊張していた気持ちが軽くなり、その後のペアでの話し合いやグループワークなどがやり易かったです。小さいことではありますがこのようなことも大切なあとと思いました。自分が感じたことを付箋に書き出してみました。自分ではなかなか気づきにくいことを他の先生方が気づいておられとても勉強になりました。また、グループワークをすることでそれぞれの保育に対する気持ちも知ることができました。

②今後の保育に具体的にいかせると思ったこと

- ・事例の中のねらいや内容がとても具体的に書かれており、改めてハンドブックを見直して参考にしていけたらと感じました。
- ・運動会の事例から、4月当初の子どもの姿、課題から子どもたちに何を感じさせたいか個々の目指す姿を明確にしつつも、子どもたちに「させる」ことはせず、あくまでも子どもの「したい」「やってみたい」を見守り、気持ちを思いきりだせる環境がつけられていました。「～させる」ではなく、「～したい」を子どもたちから引き出していきたいです。
- ・子どもの姿の捉えを丁寧にしていくこと。それを担任自身が年間を通してしっかりと持ち続けていくこと。子どもの姿やことばの変容から発達の節目を捉えること。子ども一人一人により添い、見守っていきながら支えることを大切にしたいです。
- ・子どもの姿を捉え、保育の中に意識して取り入れようと思うと、どうにかしなくてはと保育者の方が焦ってしまうことがあります。やはり、子どもたちの普段のやりたいことが発達にとって大切であるということに改めて感じました。
- ・「子どもたちと一緒につくる運動会」の考え方を自園の子どもたちの実態を見ながら全職員で話し合うこと。子どもが「自分が見つけた遊び」が基盤になることを再認識します。
- ・今、乳児の担任をしています。このかわりがその後につながるということも改めて感じました。一人一人の興味・関心を大切にする。「さ

せる」ではなく、「したくなる」環境づくり、保育者の声かけや関わり、子どもの変容する姿の読み取りや気づいた変化を職員、保護者と共有するなどの点をあらためて大切にしたいです。

6. おわりに

島根県雲南市では、「雲南市キャリア教育推進プログラム『夢』発見プログラム幼児期版」と「雲南市幼児期運動プログラム〈理論編〉・〈実践編〉」が策定され、乳幼児期における保育、教育の目指す子ども像や基本的な考え方が明確になり、それを見据えた体系的な研修計画が確立されている。加えて、県内では先がけて子どもの心身の発達に大切な「運動遊び」に着目し、運動遊びハンドブックを活用することで運動遊びの意義を問い直し、運動遊びに必要な保育者の役割を考える研修会を位置づけていることは他地域のモデルとなるであろう。

また、運動遊びハンドブックを活用した「雲南市幼稚園、保育所（園）、認定こども園職員研修会」は、令和2年1月に島根県の市町村及び県幼児教育アドバイザー・指導主事等合同研修会で報告する機会をもつことができた。県内の幼児教育の指導的な立場にある教職員がグループワークを経験し、本稿の研修プログラムについての理解が図られた。このような経緯から、県内の幼児教育研修会や雲南市内の研究会等でも、運動遊びハンドブックを活用したグループワークによる研修が広がり、それぞれの幼稚園や保育所においても保育の質の向上のために職場内での研修に活用されつつある。職場内での研修がさらに充実し、保育者同士が日常的に、主体的に学び合う姿勢と環境が整うことを期待している。

今後は、本研修会を受講した保育者の追跡調査や質問紙調査等を進め、自らの職位や職務内容に応じて、組織のなかでどのような役割や専門性が求められているのかを分析し、研修プログラムの更なる工夫を進めていきたい。そして、キャリアパス（理想とする人材像）を明確にし、経験や立場の異なる保育者同士のグループワークによる学び合いから、保育者の資質向上につながるような研修プログラムの開発や啓発に今後も努めていきたい。

【謝辞】

本稿をまとめるに当たり、雲南市教育委員会、雲南市子ども政策局子ども政策課、雲南市身体教育医学研究所うんなん、のぞみ保育設計研究所には全面的にご理解、ご協力をいただき、研修会の内容などの掲載にご快諾いただきました。また、研修会の受講者であり、感想や写真を掲載させていただきました保育者の皆様には研究の趣旨をご理解くださり、掲載に際してご快諾いただきま

した。ここに記して厚くお礼申し上げます。

【引用・参考文献】

- ・ 汐見稔幸・無藤隆：「〈平成 30 年度施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント」，ミネルヴァ書房，2018
- ・ ミネルヴァ書房編集部：「保育所保育指針 幼稚園教育要領 [解説とポイント]」，ミネルヴァ書房，2008
- ・ 無藤隆：「幼児期のおわりまでに育ってほしい10の姿」，東洋館出版社，2018
- ・ 内閣府・文部科学省・厚生労働省：「平成 29 年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領」原本，チャイルド本社，2017
- ・ 文部科学省：「幼稚園教育要領」，フレーベル館，2017
- ・ 厚生労働省：「保育所保育指針」，フレーベル館，2017
- ・ 内閣府・文部科学省・厚生労働省：「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」，フレーベル館，2017
- ・ 文部科学省 幼児期運動指針策定委員会：「幼児期運動指針ガイドブック」，サンライフ企画，2012
- ・ 雲南市教育委員会・雲南市子ども政策局：「雲南市『夢』発見プログラム 幼児期版」，2011
- ・ 雲南市教育委員会・雲南市幼児期運動指針実践調査研究委員会：「雲南市 幼児期運動プログラム〈理論編〉」，2014
- ・ 雲南市教育委員会・雲南市子ども政策局・雲南市幼児期運動指針実践調査研究委員会：「雲南市幼児期運動プログラム〈実践編〉」，2016
- ・ 梶谷朱美編著：「学生と保育者のための運動遊びハンドブック～感じて、気づいて、考えて、子どもと共に創る運動遊び～」，今井出版，2019
- ・ 鈴木みずえ編集：「転倒・転落予防のベストプラクティス」，南江堂，2013